



十和田市立中央病院

病院ニュース

さわらび

令和4年新春号



## 新年の挨拶



### パンデミックの日常

十和田市立中央病院  
病院事業管理者

たんのひろあき  
丹野 弘晃

明けましておめでとうございます。今年もコロナの話題で幕開けとなることが、やはり癪に障りません。先天的楽観主義者と自己分析している私ですが、歴史的なスピードでワクチンが開発されたこともあり、急速にこのパンデミックは終息するだろうと本気で思っていました。浅はかでした。早く日常を取り戻したいとの思いも丸2年となると、今の生活が新たな日常として沁み付いてくるものです。

今回のパンデミックは、もともと加速していたテクノロジーの進化と長寿化の進展による生き方の変化に、拍車をかけているように感じます。これまでの人生の選択や行動の前提になってきた古い常識の多くが、現実から乖離し、さらに言えば、見当違いにすら見えはじめている感覚があります。改めて、あらゆる面から己の人生を見つめ直す機会を提供してくれているのが、このパンデミックなのかもしれません。

さて、個人個人の集合体が家庭であり、職場・学校であり、地域であり、そこに生活がある、ということになります。体調が崩れた場合は当然のことながら医療との関わりが必要になり、長寿化とも相まって生活と医療の混在化がますます進むことが予想されます。この状況を国は、地域包括ケアシステムの構築で乗り越えようとしている訳です。上十三地域の医療介護福祉連携は、すでに住民の皆さんの生活も踏まえた新たな段階へ向かっていると思います。さらには、このパンデミックをきっかけにして、個々の変化をそれぞれの生活の場に存在する古い常識の問い直しに繋げながら、それを日進月歩する医療に融合させなければなりません。そのためには、医療も積極的にまちづくり・地域づくりに参画し、病院を地域共生社会の拠点として位置付けることも、その一助になると思います。当院が、医療だけではなく、誰もが分け隔てなく参加できるような集いの場を提供できるように、これからも試行錯誤を重ねて参ります。

現在、地域全体に漂っているパンデミックの日常は、私達にたくさんの刺激を与えてくれています。負の部分も多いですが、この刺激を前向きに捉えて、今年は地域全体でこれまでの常識を見つめ直し、生き方ならぬ地域の在り方の方向性を見つけ出す年にしたいものです。本年もどうぞよろしくお願い致します。

